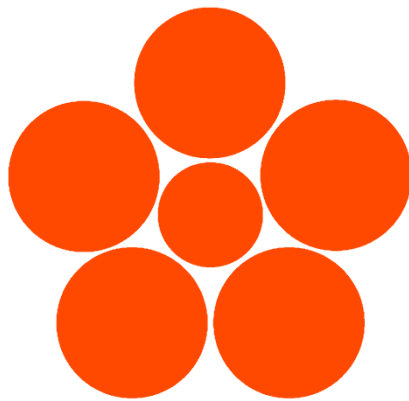


# 幕末の桑名藩主 松平定敬

～謎多き一会桑政権の担い手～



## (1) 黒船来航



社会福祉法人桑名市社会福祉協議会



ごあいさつ

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会は、平成三十一年（二〇一九）四月一日に一般財団法人桑名市文化・スポーツ振興公社を統合し、生涯学習事業までをも含めた幅広い地域福祉活動に取り組むことが可能となりました。

その一環として、令和元年度は『ほぼ月刊桑名歴史こぼなし』の創刊（四月一日）、「バレーボール西田有志選手特別展」（一月九日、六華苑）、「桑名出身オリンピック日本代表選手講演会」（一月二十六日、大山田コミュニティプラザ）の開催といった文化事業を実施し、この度「歴史講座『桑名藩幕末物語』」を開催する運びとなりました。

これらの事業は一見すると福祉とは無関係に捉えられるかもしれませんが、文化、スポーツを通じた興味関心を広げることは活動的な日常生活へとつながり、さらには生きがいある豊かな人生を実現するための糧となるはずです。医療、福祉では活動的な日常生活は介護予防や健康増進に有益であることを説明して推奨してきましたが、趣味や生涯学習を目的とした自発的な活動は最も理想的な健康増進、介護予防と言えるのです。桑名市社会福祉協議会では、今後も福祉、医療、文化、スポーツを有機的かつ連続的につなげていくことで、さらなる地域福祉の推進を図ってまいりたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和二年（二〇二〇）二月二十二日

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会



桑名藩主松平定敬花押

## はじめに

昭和六十一年（一九八六）十二月三十日と三十一日の二日間にわたって日本テレビ系列で年末時代劇スペシャル『白虎隊』が放送された。ここに私の郷土史研究が始まった。

白虎隊と言えど誰もが知っている幕末会津藩の歴史物語である。しかし、当時小学生だった私は地元桑名の殿様である松平定敬がはるか遠い会津の地で馬にまたがって戦う姿に衝撃を受けた。調べてみると定敬は幕末の前半を江戸、後半を京都、大坂で過ごし、戊辰戦争では船で新潟に渡って柏崎、会津、仙台、箱館を転戦した。最後は上海にまで渡航し、明治に入ると渡米すらしている。当時としては驚異的な距離を移動した人物と言えよう。

幕末を舞台とした物語には必ずと言っていいほど松平定敬が登場する。それは「一会桑政権」の一翼を担う者として重要な立ち位置にあったために他ならない。NHKの大河ドラマでも『徳川慶喜』『新選組！』『八重の桜』などに登場しており、慶喜と容保を語るには不可欠な存在といえよう。しかし、定敬自身が主人公となることはなく、あくまで脇役での登場に過ぎない。これほどまでに有名な人物でありながら、実はその人生は多くの謎に包まれており、行動には不明な点が多いのである。

その最大の理由が桑名における修史事業の遅れであろう。同じ敗者である会津藩では敗戦、斗南移封という大きなハンディキャップを背負いつつも『七年史』『京都守護職始末』『会津戊辰戦史』などが相当早い時期に編纂され、戦後の新史料の発見や自治体による修史事業、郷土史研究者による地道な研究が積み重ねられている。専門の研究者のみならず市井の郷土史研究者たちの集う会津史談会の活動も活発である。まさに会津は幕末研究の先進地とも言える。

一方、このような修史事業は桑名において行われなかった。桑名藩の幕末維新期の動向をまとめた書籍は少なく、一部の藩士の手記や回顧録も限定的である。最も大きな問題は定敬の伝記が編纂されなかったことだろう。定敬を採り上げた書籍はこれまでにほとんど出版されておらず、一般書では新人物往来社発行の『松平定敬のすべて』が唯一といえる。戦後の修史事業も桑名市は昭和三十四年（一九五九）に『桑名市史』を刊行して以来本格的な編纂を行っていない。それを行わない理由はきまって空襲と伊勢湾台風による史料の散逸が挙げられる。さらに戊辰戦争での敗戦による混乱が付け加えられる。

しかし、桑名は戦災、天災を免罪符として歴史の空白を埋める努力を怠ってしまっている。本来は遅滞しているからこそ少しでも早い段階で修史事業を行うべきであろう。私はこのような理由で桑名の歴史が埋もれていくことにあえて抗ってみたいと考えている。実は幕末関連の書籍、史料を読みふけると案外定敬は登場しているのだ。広範な史料から垣間見える定敬の姿を拾い集めてその歩みを明らかにし、波乱に満ちた定敬の人生を再構築できないか考えたのだ。

ただし、実際に取り組んでみると私の能力的、時間的制約のため本書の執筆は順調には行かなかった。完成水準も高くはなく、史料の取りこぼしや解釈の誤りも多いであろう。しか

し、そのような条件下であっても、桑名市社会福祉協議会の事業としてなんとか一部を提供するところまで漕ぎつけた。本書の発行により定敬の生涯をおぼろげながらも再現したことで、幕末研究の空白を少しでも埋めることができると信じている。このような思いで本書は編まれている。本書が今後の桑名研究の基礎となり、定敬や桑名藩に少しでも興味をもっていただく方が増えることを願ってやまない。

令和二年（二〇二〇）二月二十二日

社会福祉法人桑名市社会福祉協議会  
文化スポーツ振興課係長 西村健二



## 目次

ごあいさつ

はじめに

### 第一章 高須藩に生まれる 1

誕生 1 / 将軍位継承権を有する実家 1 / 御連枝の家格 2 / 美濃高須藩 3 / 父松平義建 3  
/ 十九人兄弟 4 / 高須藩江戸上屋敷 6 / 安政江戸地震 9 / 上屋敷の火災 10

### 第二章 桑名藩主となる 11

桑名藩主就任 11 / 定敬の諱 12 / 久松松平家 12 / 養父松平定猷 13 / 桑名藩江戸上  
屋敷 15 / 築地浴恩園 16 / 海荘と六園 18 / 妙栄稲荷大善神 19 / 桑名藩 20 / 久松  
松平家から出た将軍家茂の母 21

### 第三章 江戸八丁堀での暮らし 23

異国船と接する桑名藩 23 / 黒船来航 24 / 幕末外交に意見する桑名藩 26 / 重なる負  
担 27 / 京都屋敷の完成 28 / 桜田門外の変 29 / 溜詰となる 30 / 大坂蔵屋敷の整備  
31 / 文久改元と攘夷 32 / 和宮降嫁 33 / 兄容保との交流 34 / 諸大名との交流 35  
/ 実父義建の死 36 / 国許桑名の出来事 36

### 第四章 初めての桑名、京都 38

初の御国入り 38 / 将軍上洛 39 / 天皇と将軍 40 / 小笠原長行率兵上京事件 40 / 八  
月十八日の政変 41 / 江戸城本丸火災 43 / 上洛 43



家紋・花押デザイン 学生ボランティア「かこ」さん

令和2年（2020）2月22日発行

著者 西村 健二

（社会福祉法人桑名市社会福祉協議会文化スポーツ振興課）

発行 社会福祉法人桑名市社会福祉協議会

〒511-0062

三重県桑名市常盤町51番地 桑名市総合福祉会館

TEL (0594) 22-8311

FAX (0594) 23-5079